

「新人目線」の用語解説

語句よみ

第102号



今回のテーマ 債券投資のキーワードについて考える

債券の利子について考える時、クーポンレートや直接利回りといった言葉が登場します。あまり馴染みのない言葉ですが、債券投資を行なう際には頻繁に出てくる重要なキーワードです。今回は、これらの言葉を少し整理してみましょう。

新人くん

日興アセットマネジメントの新人。営業推進部門に配属され、投信や経済について勉強中。

1. クーポンレートとは

債券の発行者は、保有者に対して借りたお金を返します。その際、予め定められた金額を利子として定期的に支払うことが一般的です。この利子の利率をクーポンレートと呼びます。

クーポンレートは、債券の「額面」に対してA%として決められており、一般的に償還する時まで一定です。額面が100万円でクーポンレートが5%であれば、年間に利子として支払われる額は5万円*1となります。このクーポンレートは債券によってさまざまで、新規発行時における市場の金利水準や、償還までの期間などによって決まります。例えば、最近発行された日本国債のクーポンレート*2は、2年債、5年債、10年債でそれぞれ、0.1%、0.2%、0.6%となっています。約5年前に発行された日本国債では、クーポンレート*3は、それぞれ0.4%、0.8%、1.5%となっていました。

上記のようなクーポンレートが定められた債券の他に、利子が無いゼロクーポン債と呼ばれる債券があります。この債券は、利子に相当する分を発行時に額面から割り引いています。

*1 税金は考慮していません。

*2 2年債：2014年5月15日発行(340回債)、5年債：2014年5月19日発行(117回債)、10年債：2014年5月12日発行(333回債)

*3 2年債：2009年5月15日発行(280回債)、5年債：2009年5月22日発行(81回債)、10年債：2009年5月15日発行(300回債)

ステップアップ

クーポンという言葉は、債券が紙で流通していた時代の名残りで、当時の債券には本券にクーポンと呼ばれる紙片が付随していました。



2. 直接利回りとは

債券は発行された後、他の金融資産と同様に市場で取引され価格が変化します。債券は新規発行直後は、その多くが額面に近い価格で取引されていますが、償還されるまで、市場参加者の将来の物価や経済状況の予想などを反映した需給バランスなどの影響を受け価格が動きます。また、発行体の信用力が悪化した場合などは、価格が下落する要因となります。

この実際に取引されている債券の価格(時価)を考慮して利回りを計算したものが、直接利回りです。これを知ることによって、投資した金額に対してどの位の割合で利子を得ることができるのか分かります。

一般に債券の価格は、市場の金利が上昇すると下落する傾向があります。額面が100万円、クーポンが5%、の条件で債券が発行された後に、市場の金利が上昇すると、この債券の魅力は落ちることから、発行時の価格を下回ります。例えば、債券価格が99万円に値下がりがりした場合は、投資した金額の99万円に対して5万円の利子を得ることができるので、直接利回りは約5.05% ($5万円 \div 99万円$)と計算されます。

反対に、市場の金利が低下する場合、この債券の魅力は高まります。例えば、債券価格が101万円に値上がりした場合、直接利回りは約4.95% ($5万円 \div 101万円$)と計算されます。

このように、直接利回り計算することで、自分が投資した資金に対して実際にどの程度のインカムリターンがあるのか把握することができます。

ステップアップ

投資信託の月次レポートなどには、保有している債券全体で投資金額に対してどのくらいの利子収益があるかを示す「平均直接利回り」の記載があるファンドがあります。



債券のクーポンは、発行時に決まり、直接利回りは市場で決まるのです。世界の金利は市場の色々な要因で変化します。これから債券の値動きにもっと注意を払っていきたいと思います。



facebook twitter で、経済、投資の最新情報をお届けしています。